

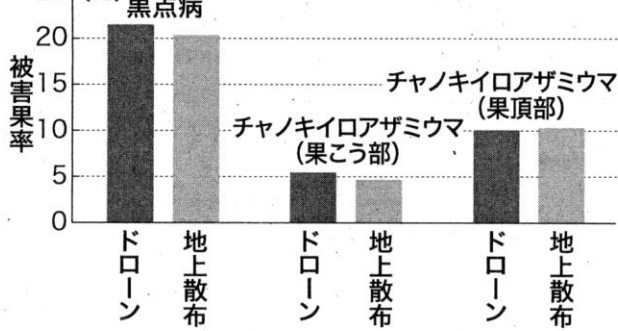
農業技術 プリズム

近年、水稻などでドローンによる防除が導入されていますが、温州ミカンでは無人航空機での登録薬剤があるものの普及が進んでいません。ドローンによる防除体系を現地へ普及するためにはさまざまな対象病害虫、条件での実用性の検証が必要です。

そこで、重要な防除時期である梅雨期以降にマンゼブ剤（ジマンダイセン水和剤）を主体とした薬剤で5、6回ドローン散布し、主要病害虫である黒点病やチャノキイロアザミウマに対する効果を2地

温州ミカン ドローン防除 主要病害虫への効果 年間通じ検証が必要

ドローン散布と地上散布の被害果割合
(4試験の平均値)



点4品種において慣行の地上散布と比較しました。

その結果、ドローン高濃度少量散布防除は黒点病に対する防除効果があり、その効果は地上散布と差はありませんでした。

また、チャノキイロアザミウマに対する防除効果も黒点病との同時防除として効果が

認められました。今後、より早い時期からの防除効果の検証や大規模圃場（ほじょう）での実証を行い、年間を通じたドローンによる防除体系の確立を進めていく必要があります。

(県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門カンキツ研究室 小嶺正敬)